

武田信玄と駿河国

武田信玄は、永禄 11 年(1568)駿河に攻め入って、^{いまがわうじざね}今川氏真を掛川城に追う。その結果、駿河を手に入れ、その記念として、^{ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ}富士山本宮浅間大社に「しだれざくら」を植えた。同神社には、^{あかいとおとしごまいどうぐそく}武田勝頼の紅糸威五枚胴具足(よろい)や武田信玄願状^{ねがいじょう}が奉納されている。翌年の永禄 12 年(1569)大宮城を開城させる。ここは、富士氏(今川氏の家臣)が守っていた城である。武田家はこれから 13 年間、駿河を支配することとなった。富士宮市内に大宮という地名が残っている。

信玄は躑躅ヶ崎館^{つづじがさきやかた}に居住していたので、駿河との情報の伝達は「のろし」を利用した。富士川沿いに「のろし台」や砦をつくり、駿府城と躑躅ヶ崎館の間 100km を 2 時間で情報を伝えたとのことである。「のろし台」は駿州往還^{すんしゅうおうかん}(現在の国道 52 号線)に沿ってつくられていた。(川端紅葉著 2026・2・26)



「のろし台」

(武田信玄のひみつ、ブックちゃんのふじのみや探検第 8 号、2012. 9. 28、富士宮市立中央図書館)